
Data SAFE

DS-B105GS

システムリカバリーマニュアル



コアマイクロシステムズ株式会社

Revision1.0



目次

1. 準備機材.....	3
2. システム復旧手順.....	3
2.1. 本体 BIOS セットアップの設定(出荷時設定).....	4
2.2. OS エリア RAID ボリュームについて.....	7
2.3. リカバリーDVD からのシステムのリストア.....	11
2.4. dataTOMO のセットアップ.....	15

はじめに

このマニュアルでご説明するシステム復旧はハードディスク(RAID)の内容を工場出荷時の状態に復旧するものです。この作業によりハードディスクは初期化され内部のデータは全て消去されます。

本マニュアルの内容は予告無く変更する場合がありますのでご了承ください。

1. 準備機材

1	USB 接続型 DVD ドライブ (BIOS 起動可能なもの) + リカバリー DVD (付属品)
2	D-SUB15PIN 装備のディスプレイモニター (1024x768 対応)
3	PS/2 又は USB 日本語キーボード
4	PS/2 又は USB マウス (USB - HUB 利用可)

2. システム復旧手順

補足説明

本手順は装置本体の全ての設定について説明してあります。RAID (ハードディスク) に障害が発生していない場合は

1. 本体 BIOS セットアップの設定 (出荷時設定)
2. OS エリア RAID ボリュームについて

の項目を省略して

3. リカバリー DVD からのシステムのリストア

より手順を進めることで Windows Storage Server 2003 を復旧することができます。

■ 準備

・装置本体に

・ディスプレイモニター

・PS/2 マウス

・PS/2 キーボード を接続します。

2.1. 本体 BIOS セットアップの設定 (出荷時設定)

本項では本体 BIOS セットアップの設定を工場出荷時に戻します。通常は製品の出荷時に予め設定されていますので障害等が発生していなければ通常は行う必要はありません。

- ・本体の電源スイッチ(前面)を入れます。
以下の画面もしくは別の画面が起動しますので「Del」キーを押します。



- ・しばらくすると、「BIOS SETUP UTILITY」が起動します。
ユーティリティが起動したら以下の 2 項目を実施します。

(1) 日時の設定

Main → **System Time** & **System Date** で現在の日時を入力する



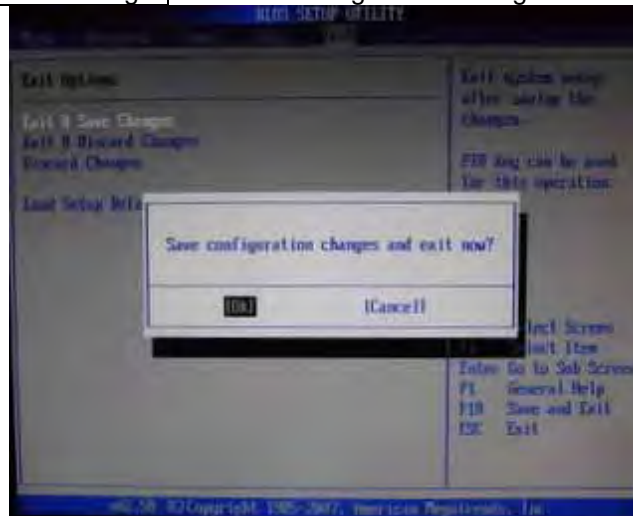
(2) 1st Boot Device の設定

Boot → Boot Device Priority → 1st Boot Device → Removable Dev.



(3) 設定変更値の保存

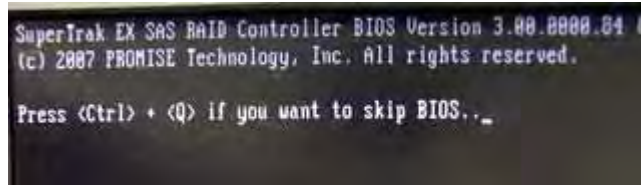
Exit → Exit & Save Changes → “Save configuration changes and exit now?” OK



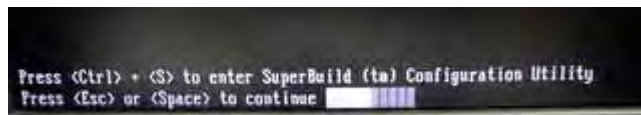
2.2. OS エリア RAID ボリュームについて

- ・装置本体に
 - ・モニター
 - ・PS/2 マウス
 - ・PS/2 キーボード が接続されていることを確認します。

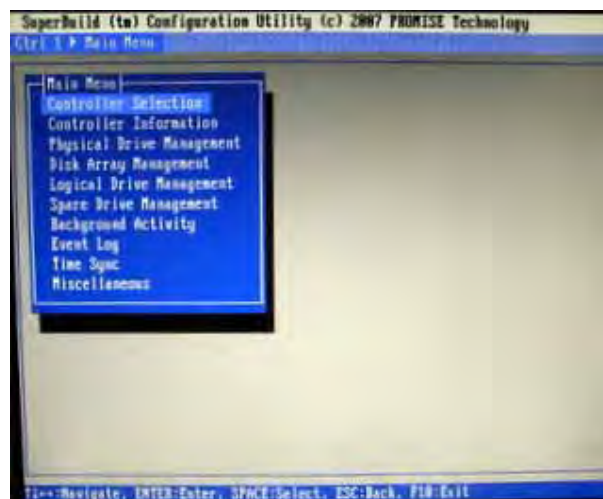
- (1) 本体を起動して POST が終了した後、RAID コントローラのバージョンが表示される
“ Press <Ctrl> + <Q> if you want to skip BIOS .. _ “
が表示されたら [Ctrl] + [Q] キーを押す



- (2) 次に画面下側に
“ Press <Ctrl> + <S> to enter SuperBuild™ Configuration Utility “
“ Press <Esc> or <Space> to continue 「 」 「 」 ”
と表示されるので、ここで [Ctrl] + [S] キーを押す



- (3) RAID コントローラの Configuration Utility 画面が表示される





Logical Drive: Logical Drive を 2 つ作成する

< LD1 > Logical Drive Name : DataSAFE
 RAID Level : RAID 1E
 Capacity : 35GB
 (他はデフォルト)



< LD2 > Logical Drive Name : Data
 RAID Level : RAID 5
 Capacity : 0 : Auto (残り全て / 約 3.7TB)
 (他はデフォルト)

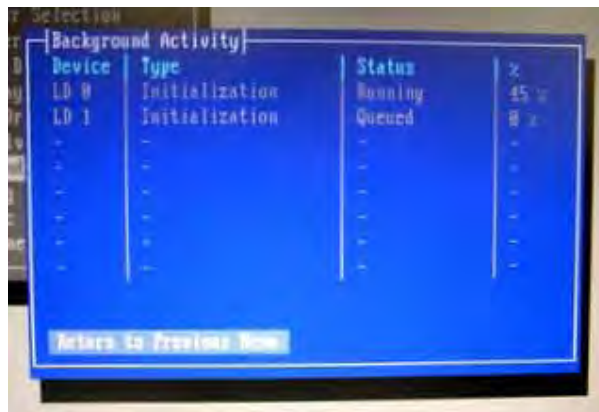


Spare Drive : 無し

- (6) それぞれの Logical Drive の Info and Setting 画面から、**Initialization Start** を選択し、**[F]** キーで Full Initialize を実行する



- (7) イニシャライズの進行具合は **Background Activity** を開くと確認できる



- (8) LD 0 が3～4分で終了し、引き続き LD 1 のイニシャライズが始まり、4時間強で終了する

2.3. リカバリーDVD からのシステムのリストア

- ・装置本体に
 - ・モニター
 - ・PS/2 マウス
 - ・PS/2 キーボード
 - ・USB 接続型 DVD ドライブ が接続されていることを確認します。
- ・電源の投入、もしくは、再起動により以下の画面が起動しますので「F8」キーを押します。

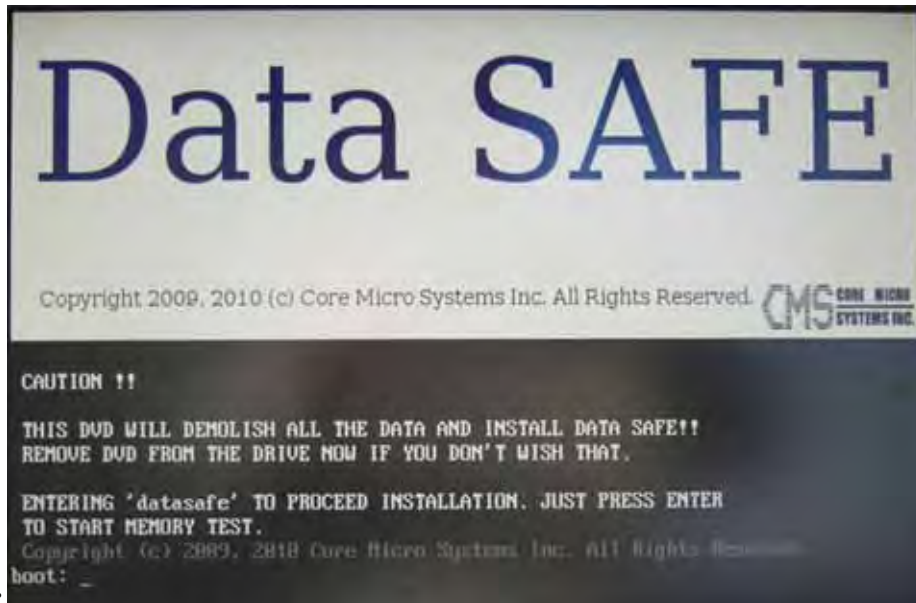


- ・しばらくすると、以下のメニューが表示されますので対象の DVD ドライブを選択して「Enter」キーを押します。

ここでは例として某社製モデルを表示しておりますが、実際に接続している DVD ドライブを選択して下さい。本装置に接続可能な DVD ドライブについて、市場で販売されている全ての USB 接続型 DVD ドライブの動作を保証しているものではありません。



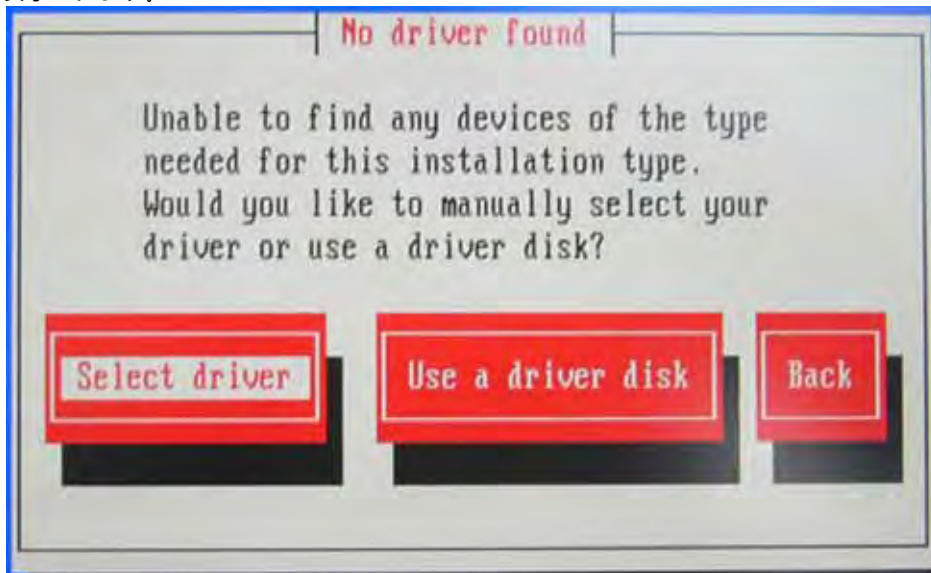
- ・リカバリーDVD が起動されると以下の画面が表示されます。



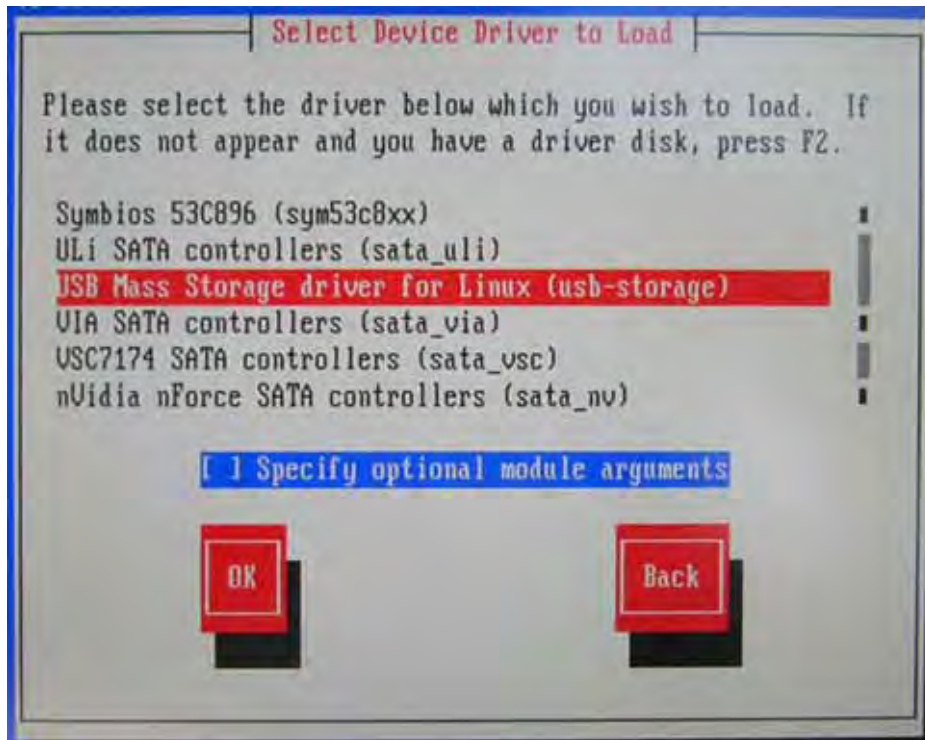
ここで、"datasafe" + Enter を入力してください。

6分以内に入力が完了しない場合、自動的にメモリーチェックに入ります。メモリーチェックが始まってしまった場合には、再起動により初めからやり直してください。

注意) USB 接続型 DVD ドライブが自動認識されなかった場合
以下の画面が表示されます。



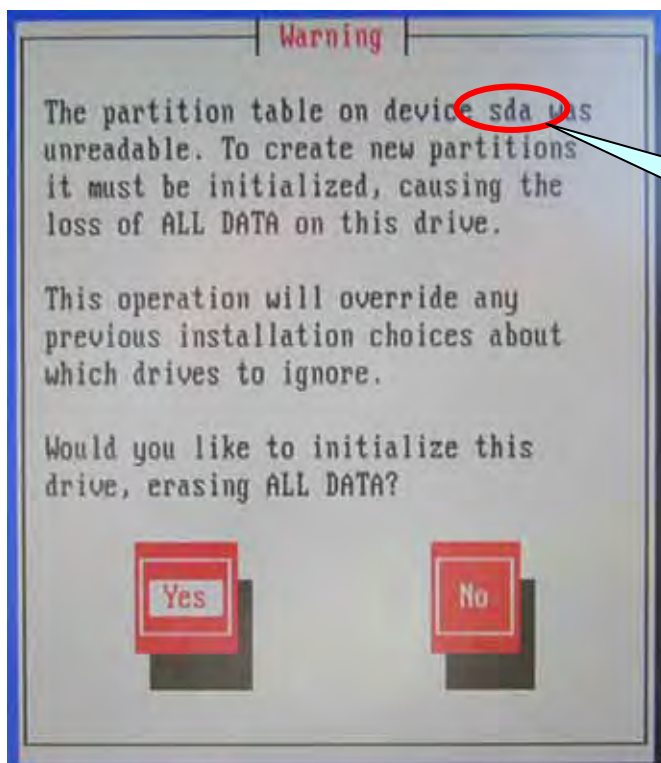
“Select driver”を選択し、下記の“USB Mass Storage driver for Linux (usb-storage)”を選んで下さい。



“OK”を選択すると、次に進みます。

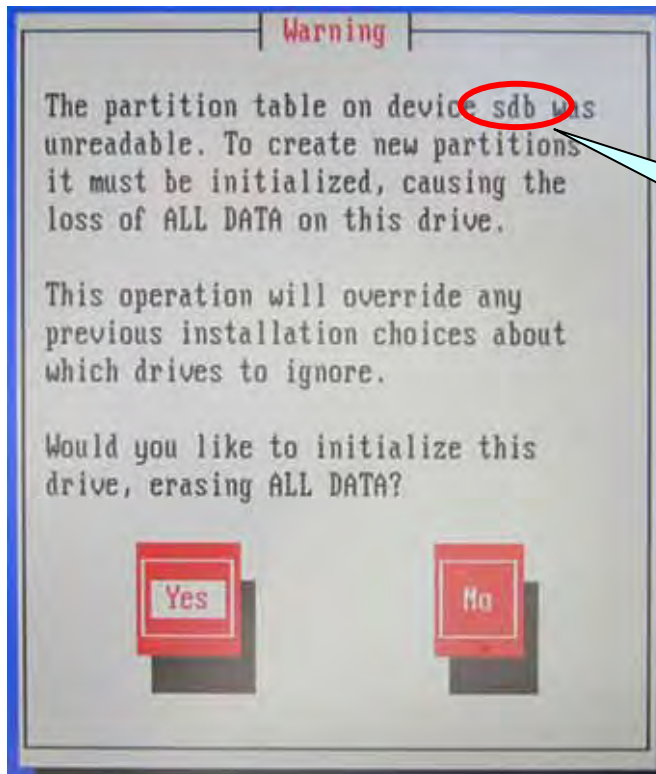
リカバリーの領域のパーティションの構築

以下の Warning が表示された場合には、“Yes”を選択してください。



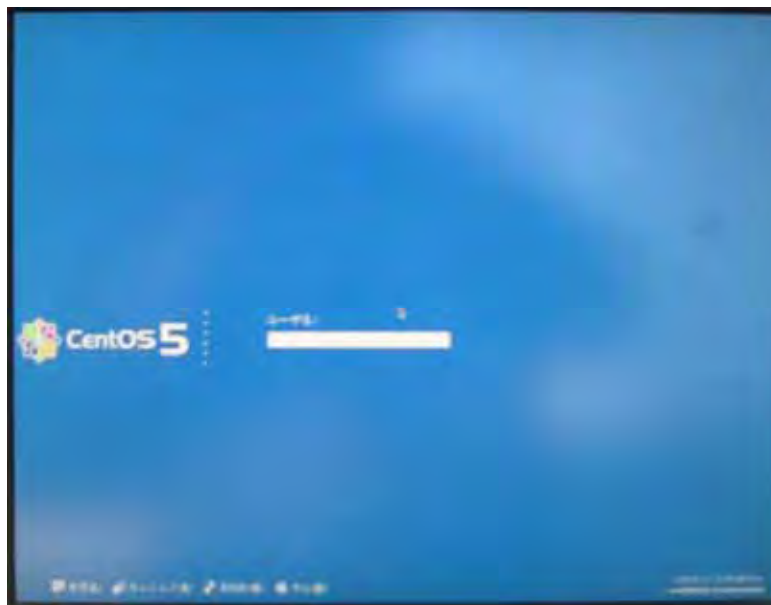
ここの表示が“sda”である事を確認してください。

以下の Warning が表示された場合には、“No”を選択してください。



この表示が“sdb”である事を確認してください。

リカバリーの前処理が完了すると、以下の画面表示がされます。



60 秒後に自動的にリブートが行われ、リカバリーDVD が自動的にイジェクトされます。

リカバリーDVD がイジェクトされた後、直ちに再ロードされる場合があります。その場合は、手動にてリカバリーDVD をイジェクトしてください。

リブート後、自動的にリカバリーの後処理が開始されます。再び上記の画面が表示されれば、工場出荷時状態になります。(但し、datatomo アプリケーションのライセンスは再入力する必要があります)

2.4. dataTOMO のセットアップ

WEB ブラウザーより dataTOMO の WEB 管理ツールを起動してください。起動方法は“WEB 管理ツールマニュアル”を参照してください。



Detatomo の管理画面から“設定情報の管理”の“ライセンス管理”より製品貼付のライセンス CD 内のライセンスファイルを選択してください。“インストール”が完了し、下記の状態になることを確認してください。



以上でリカバリーの完了です。

以上